

1 学習評価の改善・充実

(1) 学習評価の改善の基本的な考え方

各教科等の目標及び内容を資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理した。

また、観点別学習状況の評価と評定の双方の特長を踏まえつつ、その後の指導の改善等を図ることが重要であり、観点別学習状況の評価と評定の両方について、学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況の評価する「目標に準拠した評価」として実施することを明確にすることが大切である。

(2) 評価の観点及びその趣旨

教科における評価の観点及びその趣旨は、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて作成する。

【学習指導要領「教科の目標」】

(1)	(2)	(3)
知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

↓

【改善等通知※ 別紙5 「評価の観点及びその趣旨」】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	知識・技能の観点の趣旨	思考・判断・表現の観点の趣旨	主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨

公民科の評価の観点及びその趣旨

科目における評価の観点及びその趣旨は、各科目の目標を踏まえて各学校で設定する。

【学習指導要領「科目の目標」】

(1)	(2)	(3)
知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

↓

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	知識・技能の観点の趣旨	思考・判断・表現の観点の趣旨	主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨

各学校において作成することとなっている

各科目の評価の観点及びその趣旨の例

※ 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（平成31年3月29日付け30文科初第1845号）

(3) 評価規準の設定

(2) のように、学習指導要領に示された教科及び科目の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「公共」の内容のまとめりごとの評価規準（例）

○ 各科目の内容のまとめ

【公共】

- A 公共の扉・・・ **内容のまとめ①**
- B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち・・ **内容のまとめ②**
- C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち・・・・・・・・・・・・・・・・ **内容のまとめ③**

【倫理】

- A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方・・・・ **内容のまとめ①**
- B 現代の諸課題と倫理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **内容のまとめ②**

【政治・経済】

- A 現代日本における政治・経済の諸課題
 - (1) 現代日本の政治・経済・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **内容のまとめ①**
 - (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究・・・・・・・・ **内容のまとめ②**
- B グローバル化する国際社会の諸課題
 - (1) 現代の国際政治・経済・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **内容のまとめ③**
 - (2) グローバル化する国際社会の諸課題・・・・・・・・ **内容のまとめ④**

(4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

ア 知識・技能

知識については、個別の事実的な知識のみではなく、概念や理論を身に付けている状況の評価規準として設定することが大切である。技能については、各科目全体の指導の中で「調べまとめる技能」に関わる学習過程を適切に設定し、その実現状況の評価規準として設定することが大切である。学習指導要領解説に「参考資料2 社会的事象について調べまとめる技能」として整理されている。

「社会的事象について調べまとめる技能」

イ 思考・判断・表現

課題を追究したり解決する際に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、適切な概念等に着目して考察したり、構想したり、その過程や結果を表現する学習過程を適切に設定し、その実現状況の評価規準として設定することが重要である。

- 「公共」の「人間と社会の在り方についての見方・考え方」
社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせる。
- 「倫理」の「人間としての在り方生き方についての見方・考え方」
社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせる。
- 「政治・経済」の「社会の在り方についての見方・考え方」
社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせる。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

現代の諸課題を主体的に解決しようとしている状況を評価することが重要である。学習内容を人間としての在り方生き方、社会の在り方と結び付けて深く学ぶことの意味や意義に気付くこと、これからも問い続けていきたいことを見出している状況などを評価する。

(5) 観点別学習状況の総括の進め方

ア 評価の時期等

毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、場面を精選することが重要である。

評価の種類	評価の時期
「評定に用いる評価」 (評価の計画例における「○」)	内容や時間のまとまりにおける実現状況を把握できる段階で実施
「学習改善につなげる評価」 (評価の計画例における「●」)	「○」に至るまでの指導として、机間巡視や作業状況の確認・支援として、学習状況の把握のため日々の授業の中で実施

イ 評価方法の工夫

ノートやワークシートなど、多様な評価方法について工夫を図ることが大切である。

ウ 評価の総括

適切な評価の計画の下に得た、生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられる。

総括の方法(例)	具体例
A、B、Cの数を基に総括	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の評価結果「ABB」を「B」と総括 ・4回の評価結果「AABB」を「A」とするか「B」とするかなど、総括の仕方は各学校で定める。
A、B、Cを数値化して総括	<ul style="list-style-type: none"> ・A=3、B=2、C=1、Bの範囲を$[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$と定める。 ・3回の評価結果「ABB」の平均値は約2.3$((3+2+2) \div 3)$となり、Bと総括

※ 学年末に総括する際には、それぞれの観点ごとの評価を学年末に総括した結果を基にする方法と、学期末に総括した評定を基にする方法がある。

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

1 (3) で示した「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成した、単元の目標及び単元の評価規準を含めた指導と評価の計画例を示す。

(1) 公共 大項目B「主として経済に関わる事項（職業選択、雇用と労働問題等）」の計画例

事例1 「公共」ワークシートを用いた「 <u>思考・判断・表現</u> 」の評価		
内容のまとまり	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	※ 内容のまとまり「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」から具体的な主題を設定した事例である。
単元名	主として経済に関わる事項	

ア 単元の目標

- ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることについて理解する。【知】
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。【知（技）】
- ・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。【思】
- ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。【態】

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることについて理解している。	幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
②現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。		

ウ 指導と評価の計画（全22時間中の11時間）

「知」：知識・技能、「思」：思考・判断・表現、「態」：主体的に学習に取り組む態度、「○」：評定に用いる評価、「●」：学習改善につなげる評価（以下、「倫理」及び「政治・経済」の表記も同様。）

	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第一次 (1時間)	単元を貫く問い 「私たちの未来における望ましい働き方とはどのようなものだろうか」				【ポイント】インターンシップへの参加によって得られた生徒自身の職業観・勤労観など、自らの体験をもとに考察し、表現する活動が考えられる。
	「これからの働き手に求められる能力とはどのようなものだろうか」 「職業選択」 ・変化を続ける現代社会において、どのような能力が求められているか考察する。 ・「単元を貫く問い」について、仮説を立てる。 【留意点】単元の最後に振り返り検証する。	●	●	【思】ワークシート 技術革新や産業構造が変化する中でどのような能力が求められるかを予測し、まとめることができています。 【態】ワークシート これまでの学習と関連付けて仮説を立て、単元の学	【ポイント】大項目Bは、大項目A「公共の扉」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用する。

				習に見通しをもって取り組もうとしている。
第二次 (1時間)	<p>「労働問題に直面したとき、ワークライフバランスの観点から、私たちはどのように行動しなければならないのだろうか」</p> <p>「雇用と労働問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の日本にはどのような労働問題があるのか理解し、勤労権の観点からどのような対応ができるか考察する。 アルバイトに関するアンケート調査の具体例から、身近にある労働問題に自分ならどう対応するか、考察する。 立場によって労働環境にも違いがあることを理解し、労働条件を改善するために行われている取組を理解する。 	○	○	<p>【思】ワークシート 労働法規と照らし合わせながら考察することができる。</p> <p>【知(技)】ワークシート 多面的・多角的な視点から、労働環境について理解できている。 資料から読み取った内容と学習内容を関連付けて考察し、表現している。</p>
				<p>【留意点】違法な時間外労働や、賃金の不払いなどのトラブルに見舞われないようにするため、また、トラブルに直面した場合に適切な行動をとることができるよう、労働保護立法について触れる。</p> <p>【ポイント】本単元で学んだことなどを踏まえ、「単元を貫く問い」について自らの考えを論述する。</p>
第六次 (1時間)	<p>単元を貫く問い 「私たちの未来における望ましい働き方とはどのようなものだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「単元を貫く問い」に対する仮説を検証する。 新たな問いを見いだす。 		○	<p>【態】ワークシート 単元の始めに立てた見通しや仮説を検証し、学習を振り返り、単元の学習の意義や新たな問いを見いだしている。</p>
				<p>【留意点】概念に着目し、見方・考え方を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら多面的・多角的に考察、表現できるよう配慮する必要がある。</p>

エ 評価問題等（ワークシートの例）

「思考、判断、表現」の評価においては、既習の知識を活用する問いを設定し、考察したことを生きて働く知識として定着させることが重要である。本事例では、ワークシートを活用し、生徒の身近な話題から労働問題を多面的・多角的に考察し、生徒の当事者としての意識を高めることができるよう工夫した。

◆単元の問い **ワークシート**

「ワークライフバランスの観点から、労働問題に直面した時、私たちはどのように行動しなければならないだろうか」

問1 以下の高校生のアルバイトに関するアンケート資料（20××年）を読み、労働問題だと思われるところにアンダーラインを引こう。また、労働法規と照らし合わせて、何が問題になるか考えてみよう。

	場所	時給	職種	困ったエピソード
1	ファーストフード	805円	接客業	平均収入7万くらい。いつも火傷する。
2	スーパー	850円	レジ	パートのおばさんがすごく気が強い。10連動もある。
3	コンビニ	790円	接客業	店長にアドレスを渡される、手を触られた←セクハラ
4	ホテル	790円	接客業	結婚式で酒を調合する仕事。午後4時から12時まで。
5	コンビニ	790円	接客業	シフトの日程を勝手に変えられた。夜だったのが朝に変えられたりした。
6	飲食店	750円	接客業	時間外でも無給でよく働かされる。現金チェックで足りなかった分など払わされる。

問2 労働法規と照らし合わせたうえで、労働問題にどのような対応をとることが望ましいと考えますか。

評価規準

A 現代社会の課題を踏まえ、労働者の権利や労働法規に関する施策について、自分の考えを明確にしながら根拠に基づき具体的に述べている。

B 現代社会の課題を踏まえ、労働者の権利や労働法規に関する施策について、根拠に基づき述べている。

C 現代社会の課題が踏まえられておらず、根拠も十分ではない。

【ポイント①】 高校生のアルバイト調査の結果を示し、生徒にとって身近な例から労働問題を考えさせている。

【ポイント②】 他の事例としては、求人票を用いて労働基準法が定める労働条件の最低基準を満たさない労働契約は無効であること、日本ではワークライフバランスがとれるような働き方や、それぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会の実現が課題となっていることなどの観点からも、多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。

【ポイント③】 生徒が企業等との間でトラブルに見舞われないようにしたり、トラブルに直面した場合に適切な行動をとったりすることができるよう、当事者意識を高める問いを立てている。

(2) 倫理「国際社会に生きる人間としての自覚」の計画例

事例② 倫理エッセイを用いた「知識・技能」の評価		※ 内容のまとめり「A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方」のうち、中項目(2)「国際社会に生きる人間としての自覚」の事例である。
内容のまとめり	A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	
単元名	国際社会に生きる人間としての自覚	

ア 単元の目標

- ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する。【知】
- ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付ける。【知(技)】
- ・ 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。【思】
- ・ 日本の伝統と文化や日本人としてのものの考え方の特質を理解し、国際社会に生きる生きる人間としての在り方生き方について思索を深め、自らの人生観、世界観ないし価値観を確立する。【態】

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解している。 ② 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けている。	古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の伝統と文化や日本人としてのものの考え方の特質を理解し、国際社会に生きる人間としての在り方生き方について思索を深め、自らの人生観、世界観ないし価値観を確立しようとしている。

ウ 指導と評価の計画 (11時間)

	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第一次 (1時間)	<p>単元を貫く問い 「日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方はどのようなものか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「単元を貫く問い」について、仮説を立てる。 ・ 生徒各自の体験やこれまでに見聞きした情報による推論を交流し、問いに対する解を得るための見通しをもつ。 		●		<p>【態】ワークシート これまでの学習と関連付けて仮説を立て、単元の学習に見通しをもって取り組もうとしている。</p>

【ICTの活用】
Googleフォーム等の活用して個々の意見を可視化することにより、各自の推論を導き出している根拠等について知ることで考察を深める効果が期待される。

第二次 (4時間)	<p>「古来の日本人の心情と考え方に見られる特質とは何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、古来の日本人の心情や考え方についてまとめる。 まとめた内容を生徒間で話し合う活動等により交流し、他者の考え方と比較して考察したり、先哲と対話したりしたことをまとめる。(例：生徒自身と古来日本人との「死生観の比較」) 	●	●	<p>【知(技)】ワークシート 諸資料から日本人の人間観、自然観、宗教観などの特質に関わる情報を収集し、読み取っている。</p> <p>【思】ワークシート 資料から読み取った内容について、他者や先哲の考え方と比較するなどして考察し、表現している。</p>	<p>【留意点】生徒の実態に合わせて、学習課題に係る先哲の著した資料の内容や、学習形態を工夫する等が考えられる。また、生徒自身が思索する時間を確保することが重要である。</p>	
第三次 (4時間)	<p>「外来思想は日本人の思想形成にどのような影響を及ぼしたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 古来日本人の心情と考え方は外来思想を受容することによって、どのように変化したか、また何が変化しなかったのかについて、代表的な先哲の諸資料より読み取り、まとめる。 変化したものと変化しなかったものがあるのはなぜか日本の風土について考察する。 	●	○	<p>【知(技)】ワークシート 諸資料から、外来思想が日本人の思想形成にどのような影響を与えたかについて、読み取っている。</p> <p>【思】ワークシート 諸資料から読み取ったことを踏まえ日本の風土について考察し、表現している。</p>	<p>【留意点】外来思想を受容する際の課題意識を自己の課題と結び付けて考える視点をもてるよう、読み取った内容を発表し合ったり、発表内容を相互に評価したりするなどの学習活動の工夫が考えられる。</p>	
第四次 (2時間)	<p>単元を貫く問い 「日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方はどのようなものか」</p>		○	○	<p>【知】定期考査 【思】倫理エッセイ 日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、これまでに学んだことを活用し、単元を貫く問いに対する解を表現している。</p> <p>【態】ワークシート 単元の学習を振り返り新たな問いを見出している。</p>	<p>【評価の実際(例)】 A：古来の日本人の心情と考え方について、代表的な日本の先哲を取り上げ、その正しい理解に基づき、日本人の思想形成にどのような影響を及ぼしたかについて具体的に表現している。 B：古来の日本人の心情と考え方について、代表的な日本の先哲を取り上げ、それらが日本人の思想形成にどのような影響を及ぼしたかについて表現している。 C：古来の日本人の心情と考え方について、代表的な日本の先哲を取り上げ、それらが日本人の思想形成にどのような影響を及ぼしたかについて表現することができていない。</p>

エ 評価問題等（「倫理エッセイ」の活用例）

本事例では、「知識・技能」の評価に際し、日本の思想史や文化史について、単に知識として学ぶのではなく、自己形成の課題として日本人の心情と考え方を理解しているかを評価するため、次のとおり「倫理エッセイ」を活用する。

<p>【「倫理エッセイ」の活用例】</p> <p>①課題設定 「日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方」について、授業で取り扱った思想等について自らの関心や問題意識と関わらせながら課題を設定</p> <p>②資料の収集、読み取り</p> <p>③倫理エッセイの作成</p> <p>④発表会（生徒同士での対話）</p>	<p>【留意点】 課題設定の方法や、資料の読み取り方などについて、生徒の実態に応じた教師の支援が大切である。</p>
--	---

(3) 政治・経済「現代日本の政治」の計画例

事例3 リフレクションシートを用いた「主体的に学習に取り組む態度」の評価		※ 単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返るため、リフレクションシートを用いた工夫について示した事例である。
内容の まとめり	A(1) 現代日本の政治・経済	
単元名	現代日本の政治	

ア 単元の目標

- 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。【知】
- 現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。【知(技)】
- 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。【思】
- 政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。【思】
- よりよい社会の実現を視野に、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。【態】

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ② 現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	① 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。 ② 政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	よりよい社会の実現を視野に、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

ウ 指導と評価の計画（15時間）

	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第一次 (4時間)	単元を貫く問い 「よりよい社会の形成者として私たちはどのように政治に関わることがよいのだろうか」				【ポイント】 単元の始めに見通しを立てさせる。 【評価の実際】 単元を貫く問いに対して仮説を立て、解決すべき課題を挙げたりするなど、解決への見通しを立てているか評価する。 【留意点】 問いに対する疑問を出し合い、国民主権を担う公民として多面的・多角的に考察し、当事者として社会に参画する姿勢をもたせる。
	「政治とはどのような活動か。「対立」、「協調」、「効率」、「公正」という言葉を使って説明しよう」 ・「単元を貫く問い」について、仮説を立てる。 ・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配について考察する。		●	●	
第二次	「現代の日本が抱える諸問題を様々な観点から考察しよう」 ・権利と義務との関係について考	●			【ICTの活用】 Googleフォーム等の活用して個々の意見を可視化することにより、各自の推論を導き出している根拠等について知ることで考察を深める効果が期待される。

次 (4時間)	察し、理解を深める。			・単元を貫く問いに対する現在の考えを記入し、生徒相互で見合い、「良い点」や「疑問点」を出し合う。	
第三次 (4時間)	「政治をよりよくするために、高校生に何ができるだろうか」 ・小テスト「議会制民主主義等」 ・「単元を貫く問い」について、考察する。	○		【知】 小テスト 【態】 リフレクションシート ³ ・第二次のリフレクションシートの記述を踏まえ、生徒相互で「単元を貫く問い」の答えを確認する。また、単元の学習を通じて新たに追加した内容や疑問点等をもとに、学習改善につなげる評価を行う。	【評価の実際】 リフレクションシート ³ 単元の途中で、これまでの学習を踏まえ、再度「単元を貫く問い」に対する解決の見通しを立てているかについて、「学習改善につなげる評価」を行う。新たに追加した内容や疑問点等を見いだしているか確認し、適切に指導する。
第四次 (3時間)	「民主主義の活性化につながる取組としてどのようなものがあるか考えよう」 単元を貫く問い 「よりよい社会の形成者として私たちはどのように政治に関わることがよいのだろうか」 ・模擬市長選挙で政策を比較検討して、模擬投票を行う。 ・「単元を貫く問い」に対する仮説を検証する。 ・単元の学習を振り返る。	○	○	【思】 ワークシート 【思】 リフレクションシート ⁴ ・単元の始めに立てた仮説を踏まえ自分の考えを表現しているか評価する。 【態】 リフレクションシート ⁵ ・問い続けていくべき現代の諸課題とその課題を問い続けていく意義を見出しているか評価する。	【ICTの活用】 参考URL（ワークシート） 模擬的な地域政党の公約のうち、どの政策を重視するか考えるため、クラスや学年のニーズを把握するための調査をアンケート機能を用いて実施する。この結果を踏まえ、改めて誰に投票するか検討し、アンケート機能を用いて投票を行う。自分たちが理想とする自治体像の観点から模擬投票の結果を考察する。 【ポイント】 単元の学習を振り返る時間を十分に確保することが重要。

エ 評価問題等（リフレクションシート¹、⁴、⁵の例）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返ることから、次の例のように、1枚のリフレクションシートなどに単元の学習内容をまとめ、蓄積することができるような工夫が必要となる。

◆単元を貫く問い「よりよい社会の形成者として私たちはどのように政治に関わることがよいのだろうか」 **リフレクションシート**

1あなたが現在考える「政治」とはどのようなものですか。また政治参加の方法にはどんなものがありますか（ 月 日）

≪政治とは≫ ≪方法≫

●主体的に学びに向かう態度

4これまでの学習を生かして「単元を貫く問い」に対してのあなたの考えを論述してみよう **【主体的に学びに向かう姿勢】**

A：よりよい社会の構成者として様々な観点から思考し、具体的に考察している。
 B：よりよい社会の構成者として様々な観点から思考し、考察している。
 C：一つの観点からのみ思考し、具体的な例示ができていない。
 ※Cの生徒に対して：人権・憲法等の既習事項を振り返り、新たな視点への気付きを促すよう指導

5単元の学習を振り返り、これからも追求し続けて（考え続けて）いきたいことと、その理由を書こう。またその課題に対して解決の道筋はあるだろうか。 **【主体的に学びに向かう姿勢】**

A：更なる課題を設定し、その解決に向けての道筋を具体的に構想している。
 B：更なる課題を設定し、その解決策を構想している。
 C：課題を設定できず諸課題に対して解決策を考えられない。
 ※Cの生徒に対して：現在の諸課題が解決されると、自分や社会にどのような影響があるかを考えさせる。

Topic

「主権者教育」の充実～国立教育政策研究所教育課程研究指定事業 ～北海道稚内高等学校「公民」の取組から～

公職選挙法の改正に伴い選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられたことなどを踏まえ、これからの社会を創り出していく子供たちが、主権者として主体的に政治に参加し、社会や世界に向き合い、関わり合い、自らの人生を切り拓くことが強く求められている。

北海道稚内高等学校では、令和2年度からの2年間、公民科において、国立教育政策研究所の指定を受け、「学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究」を行っている。

ここでは、本校で取り組んでいる主権者教育の実践例について示す。

【研究の主題】

「公民科」の各科目において、単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする学習を通して、主体的に生きる国民として社会に参画するために必要な資質・能力を育む指導方法及び評価方法の工夫改善に関する研究。

【主な研究活動】

- 新科目「公共」を見据えた授業の実施
「政治・経済」の単元「現代経済の仕組みと特質」において、「公共」の大項目Bを想定し、「単元を貫く問い」を提示し、ペアやグループなどの協働的な活動を授業の中心に据え、問いを考察し、表現する学習を行った。
- 外部講師の積極的な活用
単元「政府の役割と財政・租税」において、税理士を講師とする「租税教室」を導入し、生徒が具体的な事象と結び付けて学習に取り組めるようにした。
- 体験学習や思考実験などを用いた協働的な学習
「模擬裁判」により、国民の司法参加の意義や、公平な裁判の仕組みについて考察させたり、「囚人のジレンマ」を題材とした思考実験により、国家間の協調にはどのような仕組みが必要か考察させたりするなど、生徒の思考力や判断力が深まるよう工夫した。



2学年「政治・経済」の取組

【単元の指導計画】「政治・経済」の単元「現代経済の仕組みと特質」

	学習内容	生徒の学習活動	評価規準
第1次 (3時間)	経済活動の意義と経済体制	<p>【単元を貫く問い】 経済の発展を促進する効率性の追求と、国民福祉の向上で求められる公平性や公正さの両方を成り立たせるには、どのように考えたらよいのだろうか。</p> <p>経済活動は何のために行われるものか。</p> <p>計画経済 ← 対照 → 市場経済</p>	<p>経済活動が分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われることを理解している。 【知】定期考査) 市場経済や計画経済など、経済問題の解決方法の違いについて考察し、適切に表現している。 【思】ワークシート)</p> <p>学校教育目標との関連を明確にして単元の評価規準を設定し、ワークシートやアンケート等を活用した評価方法となっている。</p>
第1次(3時間)、第2次(9時間)、第3次(10時間)と続き、一貫して「単元を貫く問い」を考察させる学習内容となっている。			

【研究の成果等】

- 授業アンケートにおいて、「主体的に学ぶ姿勢が身に付いていると思う」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合が84.8%に達するなど、生徒の「課題を意欲的に解決しようとする態度」の育成に一定の成果が見られた。
- 外部講師による「租税教室」の内容を踏まえ、公平な税制度についての「問い」を考察させたことにより、税制度の基本や納税者としてその用途について関心をもつことが大切であることを理解している様子が、ワークシートなどから見られた。
- 体験的な学習や思考実験等を行ったことにより、授業アンケートにおいて、「現代の諸課題について自ら考えたことを他者と議論する力が身に付いていると思う」という質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合が77.8%となったことから、課題に対して考えや議論を深める指導の工夫により、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成に一定の成果が見られた。

[参考] 北海道稚内高等学校のウェブページ (<http://www.chikou.hokkaido-c.ed.jp/>)